

全国特別支援学校病弱教育校長会

会報 第62号

ごあいさつ

発行者 全国特別支援学校病弱教育校長会
千葉県立仁戸名特別支援学校長
日下 奈緒美
編集 千葉県立四街道特別支援学校長
松崎 正敏
令和7年3月27日発行

全国特別支援学校病弱教育校長会会長

千葉県立仁戸名特別支援学校長 日下 奈緒美

令和6年度も、自然の現象に立ち向かう厳しさを多くの方が感じる一年でした。一方で、人は復興再建を目指し、過去に学びながら新たな術を見出す努力ができるのだと教えてもらっています。そんな力強さを知るからこそ、日々の課題にもまだ対応の術があるのではないか、できることがあるのならばやらなければならないと思うことも多くございました。各校の様々な難題課題に取り組んでおられる全病長会の皆様にとって、どのような一年となりましたでしょうか。日頃より、全病長へのご理解とご協力ありがとうございます。

今年度も、総会と第1回研究協議会をオリンピックで開催、多くの皆様にご参加いただきました。「やはり直接会うと違うね」そんな声があちこちから聞こえ、情報交換の機会として大切な場であることを改めて実感いたしました。第2回研究協議会は、全病連の開催に合わせて令和7年度までWeb開催です。当日は、4つの分科会テーマで5グループがオンラインで協議いたしました。ご協力ありがとうございました。

病弱教育は、医療機関の現状に大きく影響を受ける中、子供たちの教育保障の重要な学校現場としての役割を果たしています。学校教育のスタイルが変化しつつある今、各地域の特徴やニーズに合わせた学校の有り様が求められています。子供を取り巻く環境の変化の中、病気療養児の切れ目ない学習支援に、病弱教育の担う役割はさらに大きく期待されるところです。

今後とも、病弱教育の発展にご尽力いただけますようお願い申し上げます。

活動報告

令和6年度全国特別支援学校長研究大会・総会

6月27日（木）・28日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センターに参考し、開催しました。

研究大会の主題は「令和の日本型学校教育の構築を目指した特別支援学校の経営の在り方～全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進～」でした。

27日は、総会で文部科学大臣政務官 安江 伸夫 様、全国都道府県教育長協議会会長 浜 佳葉子 様よりご祝辞を頂いた他、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 生方 裕 様による行政説明と、独立行政法人教職員支援機構理事長 荒瀬 克己 様より「これからの中等教育の方向とそれを踏まえた教職員育成の在り方について」のご講演をいただきました。

28日は、5障害種の総会及び研究協議会の後、「危機管理・防災教育」「学習指導要領を具現化するための教育課程の改善」「インクルーシブ教育の構築」「自立と社会参加の充実」「特別支援学校における地域と連携した人材活用の推進」の5つのテーマごとの分科会で経営課題別の研究会を行いました。



令和6年度全国特別支援学校病弱教育校長会総会

令和6年度全国特別支援学校病弱教育校長会第1回研究協議会

国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた令和6年度全国特別支援学校長研究大会と合わせて参集型とし、6月28日（金）に開催しました。

総会では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 相原 千絵 様、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会会長 羽田京子 様、同事務局 南風野 久子 様に来賓のご挨拶をいただきました。

研究協議会では、石川県立医王特別支援学校校長 居村 恵子 様より「能登半島地震における対応等について」報告を、熊本県立黒石原支援学校校長 前川 美穂子 様より「本校の自立活動の取組」の実践報告をいただきました。

また、午後の研究協議会では、国立特別支援教育総合研究所統括研究員 土屋 忠之 様より情報提供をいただき、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 相原 千絵 様に行政説明及び指導講評を頂きました。



令和6年度全国特別支援学校病弱教育校長会第2回研究協議会

第2回研究協議会は、8月5日（月）午後、埼玉県立けやき特別支援学校を拠点としたオンラインでの開催となりました。

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の 相原 千絵 様を指導助言者としてお迎えし、ICT機器活用（2グループ）、高校生支援、センター的機能、自立活動の4分科会5グループに分かれ、オンラインで協議を行いました。また、国立特別支援教育総合研究所統括研究員 大崎 博史 様からも情報提供をしていただきました。

同じ障害種の特別支援学校を経営する校長の研修の場として、また、情報交換の場として、有意義な時間を持つことができました。

『病気の子どもの理解のために』の改定について



令和6年度は5冊子について文部科学省に最終確認を依頼しました。教員の作業を終えた13冊子は、日本小児科学会と国立看護大学校に依頼し記述の確認を行っています。

多くの人にご協力をお願いしている関係で、時間がかかっています。
今しばらくお待ちください。

（全病長 HP）

http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

（特総研 HP）

https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/health/supportbooklet

令和7年度の予定

第1回 理事評議員会

令和7年5月12日(月)10:00～12:00

総会

令和7年6月27日(金)9:00～11:50

第1回研究協議会

令和7年6月27日(金)13:00～15:00

第2回研究協議会

令和7年8月4日(月)13:00～17:00

開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

第2回理事評議員会

令和8年1月21日(水)10:00～12:00

第7回ロボットプログラミング選手権大会2025

令和8年1月下旬～2月上旬 10:00～14:30

Web開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

ロボットプログラミング選手権大会2024（病弱教育部門）について

千葉県立仁戸名特別支援学校

2019年度に始まったロボットプログラミング選手権（病弱教育部門）は、今年度で6回目を迎えました。全国から47校80チームが参加し、9月に開催された関東甲信越地区大会を皮切りに、全国5地区的予選大会を勝ち進んだ21チームが、全国大会で白熱した戦いが繰り広げられました。全国大会では参加校のチーム紹介動画の上映や後援企業による試合の解説、大学生とのエキシビションマッチ等も行われ、より一層盛り上がりを見せました。

関東甲信越地区大会 令和6年9月26日 事務局：千葉県立仁戸名特別支援学校

今年度の参加校は、12校20チームでした。関東甲信越地区からは、上位6チームが全国大会への出場権を手にしました。

（千葉県立仁戸名特別支援学校〔2チーム〕、千葉県立四街道特別支援学校、埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校、群馬県立赤城特別支援学校、群馬県立赤城特別支援学校小児医療センター校）

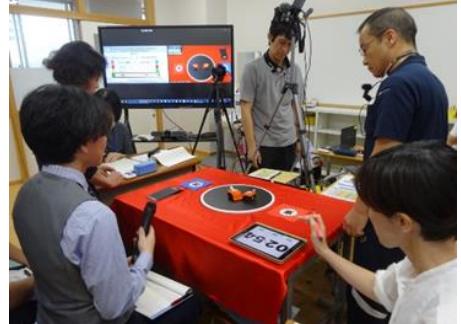
千葉工業大学、淑徳大学の学生による大会進行により、より一層盛り上がりのある大会となりました。

多くのご参加、ご協力ありがとうございました。



中国四国地区大会 令和6年10月29日 事務局：高知県立高知江の口特別支援学校

中国・四国地区大会では、前年度より1校3チーム増え、7校11チームがエントリーしました。チームも良さを發揮することができ、オンラインでも見やすく、臨場感を出すにはどのようにすれば良いか、校内運営チームで意見を出し合い、より良い大会になるよう運営などに工夫を凝らしました。その甲斐もあってか、本校から出場した2チームが全国大会への切符を手にすことができ、児童生徒にとっても大変貴重な経験となりました。



参加校の皆様のご協力のもと、最後まで大会運営することができました。ありがとうございました。

北海道東北地区大会 令和6年11月14日 事務局：福島県立須賀川支援学校

北海道東北地区大会では、昨年度より2校3チーム多い8校14チームが参加しました。大会の結果、優勝の北海道手稲養護学校三角山分校「三角山A」、準優勝の青森県立青森若葉養護学校「GREAT WAKABA」、3位福島県立須賀川支援学校「ねむねむ ZAKOZAKO ニャンコ」の3チームが全国大会出場を決めました。そのうち2チームが連続出場ということで安定した強さを示しましたが、全体的には8試合が1勝1敗で3戦目を迎える結果となるなど、手に汗握る熱戦が続きました。



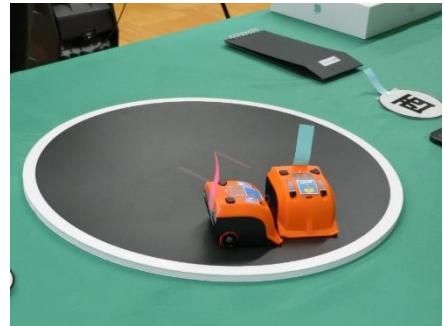
参加校の皆様、ご協力ありがとうございました。

近畿東海北陸地区大会 令和6年11月26日 事務局：京都市立桃陽総合支援学校

今年度、近畿東海北陸地区大会では、10校18チームがエントリーしました。抽選会では、各参加校それぞれの学校紹介やチームのアピール動画を視聴することでお互いを知る良い機会となりました。大会当日は、どのチームも工夫を凝らしたプログラムをセッティングしており、レベルの高い試合が続出でした。

大会運営において、当校の児童生徒が大会スタッフとして関わり、開会宣言や各試合の補助係などを行いました。

参加校の皆様、ご協力ありがとうございました。



九州九州地区大会 令和6年12月3日 事務局：大分県立別府支援学校

九州地区大会では、今年度初参戦の学校も加わり、10校15チームがエントリーしました。中には校内で予選大会を行った学校もあり、それぞれの児童生徒の思いが詰まったプログラミングが熱戦を繰り広げました。本校でも、事務局を担当させていただいたことをきっかけにロボットプログラミングに興味を持つ子どもが増え、大会の様子を多くの児童生徒が見学していました。

また、抽選会や当日の応援を通じて九州内の他の学校との交流の場となりました。画面越しで手を振り合い、お互いに称え合う様子が印象的でした。



全国大会 令和7年1月31日

事務局：千葉県立仁戸名特別支援学校

各地区予選を勝ち抜いてきた21チームによる、白熱した試合が行われました。参加校のチーム紹介動画では個性や工夫が見られ、各チームの意気込みが伝わってきました。千葉工業大学の学生が作成したプログラムと各チームの推薦プログラムによるエキシビションマッチでは、学生とともに一喜一憂することで、更に交流の深まりが見られました。

優勝：千葉県立仁戸名特別支援学校「ちーちゃん」

準優勝：千葉県立四街道特別支援学校「Re：ゼロから始めるロボプロ生活」

第3位：大阪府立刀根山支援学校「わにカン」

特別賞：群馬県立赤城特別支援学校 「ぜんまい」

技術賞：千葉県立仁戸名特別支援学校「うめちゃん」 プログラム名【ペコペコあおむし】

技術賞：青森県立青森若葉養護学校「GREAT WAKABA」 プログラム名【ミカン星】



令和4年度より3年間、千葉県立仁戸名特別支援学校が主幹校を勤めて参りましたが、来年度より新たに、「埼玉県立けやき特別支援学校」が主幹校となります。多くの皆様のご協力によって、円滑な大会運営ができましたこと深く感謝申し上げます。より一層、交流や学びのある大会になるよう多くのご参加をお待ちしております。